

# ふるさと稲作ほっと LINE No.1

令和6年3月22日

## 今年は特に水温確保が大切！浸種編

### 【目的①：出芽を揃えるための種子の休眠打破】

★重要★ 消毒済み種子を浸種する最初の2日間は必ず10℃以上を確保しましょう。今年の種籾も昨年同様、浸種水温が低いと再休眠となり発芽ムラとなる可能性が高いため、水温10℃～15℃を確保するよう屋内で行うかコンパネを置く等、温度変化の影響が少ない場所で管理しましょう。

3月は降雪により寒い日が続いています。浸種開始は気温が確保しやすい4月上旬から行いましょう。

### 【目的②：病害の発生を抑えるため浸種時の水は清潔に！】

最初の2日が経過したら、2、3日おきに水を交換し、清潔な状態を保ちましょう！（水を交換する際は種籾の上下を入れ替え、均一な温度管理に努めましょう。）

### 【目的③：出芽ムラを防ぐため積算温度と種子の状態を確認しよう！】

浸種は積算温度で100℃必要です。毎日の水温10℃以上を意識し、種籾の全体が透明でアメ色になったら浸種終了の目安です！もし水温が5℃以下になる場合、再休眠が起こるためお湯を足すなど温度調節が必要な場合があります。仕上げは下の写真の状態を確認しましょう！水温の上限は15℃とします。最適水温は催芽器12℃で8日間を目安にしましょう。

分かりにくいかもしれませんが左が浸種十分、右が浸種不足です。左側は全体的に透明で胚が見えますね！この状態を覚えておきましょう。



ご注意を！！

消毒済み種子を催芽器で浸種する場合、循環はしない！泡が発生し、水温ムラの原因となります！

催芽器を使用する場合は種籾の上下を入れ替えムラなく浸種しましょう！